

ハイキング悠々会

卒業 60 周年記念

文集 および 付属資料

2022 年 3 月

一 橋 大 学

昭和 37 (1962) 年会

ハイキング悠々会

## 世のため・人のために 生きたい が

遠藤 晶 土

先日、石原慎太郎先輩が89歳でお亡くなりになった。慎太郎先輩は湘南高校のご出身で私の場合、慎太郎先輩は高校・大学両方の先輩になる。

高校時代、まだ慎太郎先輩が芥川賞を受賞して有名になる前、我々の国語の先生が「君達の先輩に、高校時代に枕草子をフランス語に訳して私の所に持ってきた優秀な学生がいた」と授業中に話していた。後に、その「優秀な先輩」が石原慎太郎先輩と知るのだが、慎太郎先輩は、双葉より芳しく、その後一生、光り輝いて生きた。

石原慎太郎先輩は89歳でお亡くなりになった。人は誰でも命が絶えるのだから、お亡くなりになったことには感慨はないが、お亡くなりになった「89歳」というお歳には深く心に響くものがあった。

現在、人生百年の時代だという。あと、約20年生きるのか。あと、約20年何かして生きてゆかねばならぬのか。面倒くさいな、草臥れるな、と思っていたところへ、慎太郎先輩は89歳で格好良くあの世へ行ってしまった。

私も89歳という歳で、やりたいことを少し残して、皆と別れたいと思うが、現在の法律では私の自由にはならないのが歯がゆい。

「健康第一」「長生き第一」と、薬を飲み、リハビリに通い、自己トレーニングにも、日々、励んでいる。しかし、「健康」や「長生き」は「手段」であって、「目的」ではないよね。では、健康で長生きする「目的」はなんだろう？

今の私のように、城や神社を巡り、自作詞をCDにしたり、地元の劇団に入ったり、挙句の果ては、「ユーチューバー」になるなど、私よりは若い人達の力を借りて、遊び呆けていて良いのか？「健康で長生きする目的」はなにか？

その「答え」が、「世のため・人のために生きる」であることは、私は、内心、充分、知っている。でも、私には「世のため・人のため」に生きていないし、これからもそのように生きることは出来ないだろう。

「世のため・人のため」に、私が、すべきことは、数限りなく、ある。

曰く、「世界平和のため」「日本経済発展のため」「ご近所の環境美化のため」「女房の家事を手伝うため」E T C。同時に、同じ数だけ、私は、私に出来ないとの言い訳を、列挙出来る。曰く、「能力がない」「体力がない」「金力がない」E T C。で、結局は、最後の決まり文句「精々、他人に迷惑をかけずに生きたい」で、文を結ぶしかないかな。

今回の「傘寿記念文集」の企画は、まさに、我々同期の「世のため・人のため」の名企画で、幹事の皆様のご尽力に、只々、感謝する次第です。この上は、「米寿記念文集」もご企画、ご発行頂くよう、今からお願い申し上げます。(2022. 2. 23)